

新型コロナウイルス感染症クラスターを経験して

法人名 医療法人 篠原湘南クリニック
クローバーホスピタル
職種・所属 地域包括ケア病棟師長兼副看護部長
発表者氏名 古川幸代
協力者 篠原裕希 鈴木勇三 長谷川よし子

【目的】

A病院は地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、医療療養病棟、特殊疾患病棟を有する在宅療養支援病院である。コロナ感染症拡大を受け、外来においては発熱外来の設置、院内基準による入院時の患者の各種検査、地域包括ケア病棟ではAfter コロナの受け入れを積極的に行い取り組んできた。定期的な感染ラウンド及び研修、職員の感染予防対策、抗原検査など感染予防対策にも注力していたが、2021年3月、地域包括ケア病棟の職員と患者が発症したことをきっかけに感染拡大し、クラスターが発生した。この経験から、With コロナ時代に病床機能を維持し、地域での役割を果たしていくために事前に病床別の人員や業務についての計画の必要性を感じたため、報告する。

【方法】

今回、11名の職員、14名の患者が罹患し、入退院の中止、業務内容縮小、勤務者の減少を経験した。また、罹患患者や勤務継続している職員へのメンタルフォローも行った。その他、保健所やクラスター班の指導を受け、様々な対策を講じた。この経験を検証し今後の対策に反映する。

【結果】

以前より災害拠点病院においては指定要件になっていることから、BCP（事業継続計画）の策定が行われていたが、一般病院においては約80%の病院が策定には至っていない現状である。自院も同様であるが、特にコロナ感染症は罹患すると10日、濃厚接触者となると14日の就業停止となる。職員教育を充実させ、罹患患者が出ても、感染拡大に至らない対策は最も重要だが、合わせて万が一に備え、それぞれの部署・部門で業務継続するにはどのような業務内容で何人の人員が必要か、計画とサポート体制、多職種連携が必要である。

【考察】

病床機能により、人員配置、多職種の人員にも差があり、患者層にも大きな違いがある。病床機能に合わせた実効性のある計画の策定が必要である。

また、コロナのみならず、災害等も含めた危機管理が求められている。

参考文献：看護管理 Vol. 30 No5 2020年5月今こそ再考したいBCP 地域医療とスタッフをどう護る？ 医学書院